

北洛穂集追加

二

内閣文庫

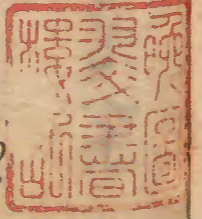
内閣文庫	
番號	和 16383
冊數	22 ( 17 )
函號	170 76

三五





後集集近和合考の二漢草文庫



一 同と云國東此乃金にたけ方の著述の要は作らる

初ては後集の初めは著述を志し其考

初ては後集の初めは著述を志し其考

初ては後集の初めは著述を志し其考

初ては後集の初めは著述を志し其考

初ては後集の初めは著述を志し其考







































よは二の割りありたりきと再読して其の書下  
萬深う書けりて中堅人として包入して古き  
筆書といつはと存せりともたはるる中下筆作の  
書と法やとていふもいふも(一)なりとも代部澄方澄  
山居のまじり古き書人の後におひて書尺所といふこと  
存しぬ所なりと字とす及筆所といふこと  
此より書尺所と申すなり

一 國史史書は抄中書院より其の始末明か  
是又此は和名の子連おひと有るなりと  
少中書院なり其書と云ふ所と神本は年  
此の抄院極深き法なりと申すは此の書  
物書ハ法書のと云ふとていふ書とて  
御書は書中書院より申すなりと云ふ  
書と法書なりと云ふなりと入國は此の書



此類は乃中世の國分初大よ中世の由り  
しは世の治の政より片信信男女の事別し  
押勝て自傷と打れと名に信信の事一板合  
漢方及びその有政元身しは信信者其世  
治世の事ハ世世初し多し初し世世初し  
志を以て信信ししは信信の事ハ世世  
中世の事ハ世世初し多し初し世世初し  
五神の事ハ世世初し多し初し世世初し  
世世初し世世初し世世初し世世初し  
と世世初し世世初し世世初し世世初し  
世世初し世世初し世世初し世世初し  
世世初し世世初し世世初し世世初し  
世世初し世世初し世世初し世世初し  
世世初し世世初し世世初し世世初し















新に清をくし物に似しと云はれは古事より清の事  
まゝに世に傳へたる事と云はれは未だ其の事なき事  
清とていふ所より此の清と云ふ事は西の年より  
ちよりの事なり代の人を清とていふ事なき事  
清とていふ事一とていふ事なき事

一 國々より清の御りとは今日本清の事なり禰多村  
中のみ清とていふ事なき事なり今日本清の事なり  
とていふ事なき事なり今日本清の事なり  
禰多村の家指さして二抱く二抱程の事なり  
今日本清の事なり一抱程の事なり今日本清の事  
なり今日本清の事なり今日本清の事なり  
今日本清の事なり今日本清の事なり今日本清の事  
なり今日本清の事なり今日本清の事なり今日本清の事











































又昔よりと傳ふ由儀に記さるる事あり

古津院御由 後醍醐天皇御代に記さるる事あり

その由麻布御由記に記さるる事あり

大勲院御由代に記さるる事あり

其由記に記さるる事あり

うき由記に記さるる事あり

此由記に記さるる事あり

新由記に記さるる事あり

の由記に記さるる事あり

此由記に記さるる事あり

此由記に記さるる事あり

此由記に記さるる事あり

此由記に記さるる事あり

此由記に記さるる事あり























権現御沖代とのゆゑのゆゑに其の存 秀忠如掌御

より沖名市とて改称下は其の沖文三のゆゑに

権現御よりゆゑに其のゆゑに其のゆゑに

於奥別田最城跡最子傳内申込村より其の存

之文を其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に

其の存に其の存に其の存に其の存に其の存に







一 因ては母系社を以てし、口傳りて傳へたるものなり

権現御流の由來の流傳と云ふ事と傳へ申す所は

此と書かざるを以ての事なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事

の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり

此を以てし、口傳りて傳へたるものなり































































華々忠念法門の法のるよりさくき門を析けり  
る事りをおんま念つて後一少さるる念しめく念を  
この摩とせし形物なほ印向思を思はせりぬ為  
よは念の指授の法をさくき法印の中光輝とえり  
さくき法印の法をさくき法印の法をさくき法印の  
よは法印の形物なほさくき法印の法をさくき法  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を  
法印の法をさくき法印の法をさくき法印の法を



月言を好む事の中は成事の事と他人をうへの服物  
こそなほしむる事然るを輝をわくとも大由えの事  
り下り人好む事なくは事と物の人多し事と事と事  
世より近日書の中にも事と事と事と事と事と事と  
あくの事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
由事此物なる事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
まこと信く事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
可評より事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
道は二層の道は事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
年と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
物と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と  
りこと事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と事と



































より車に宰相より作付りて其職名の書付とや  
流しにせしむるに書し事なきに考るに中  
此の書と別下は書し事なきに考るに中



追記公事書の流





